

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001626	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	シニアウイル株式会社			
事業所名	シニアウイルおどりば戸塚			
所在地	(245-0061)			
	神奈川県横浜市戸塚区汲沢 8-31-18-19			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年7月15日	評価結果 市町村受理日	平成22年9月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から4年半が過ぎ、ご利用者ひとりひとりの認知症状を含めた心身状況の個人差が大きくなってきています。利用者と向き合い、それぞれの利用者にあった過ごし方を見だし、家族や地域や医療と協力しながら安心できる空間づくりを目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年8月17日	評価機関 評価決定日	平成22年9月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>
 ◇理念に「個人の尊厳の尊重」を掲げ、その実践に向けて利用者を集団で支援するのではなく、一人ひとりの意向や思いをくみ取り、状況にあわせて対応している。管理者は、職員に毎月の会合や日常業務を通して、理念の具現化に努めている。
 ◇会報（おどりば一ちゃん）を毎月発行しており、家族からは、事業所内での利用者の生活状況が良く分かると好評を得ている。

<事業所が工夫している点>
 ◇バイタルチェック表を始め、服薬・点眼、排泄、入浴や水分摂取量等のチェック表、更には、リネン・パジャマ・布団干しや消毒のチェック表など、細部にわたりチェック表を活用して、利用者へのサービスの質の向上に役立てている。
 ◇服薬もれを防止するため、「服薬・点眼チェック表」にて、利用者が服薬した直後に○を付け、空の薬包を第三者が確認した時点で、チェック表に斜線を入れるダブルチェックを徹底している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	シニアウイルおどりば戸塚
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

シニアウイールおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は尊厳・なじみの関係・地域参加・医療との連携を掲げており、日常の介護において無理なく実践している。	<ul style="list-style-type: none"> ・1階の事務室と2階のリビングに理念を掲示して、月1回のスタッフ会議で理念を再確認している。 ・利用者を集団として介護するのではなく、個人の尊厳を第一に、利用者一人ひとりの状態に合わせて支援している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、運営推進会議には町内会長や民生委員も出席いただき意見交換をしている。また、地域の祭りや運動会などにはできるだけ参加するように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が地域の防災訓練に参加する他、運動会や盆踊りなど地域の行事にも利用者と共に参加している。 ・事業所が設立5周年を迎える今年の10月には、自治会長、民生委員、近隣の住民を招いての行事を企画している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の人に認知症のセミナーなどを開催したことはない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実績についての報告や取組みについて意見交換を行っている。得られた意見については、事業所で検討し可能な意見については積極的に取り入れ実践に生かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は3か月ごとに開催しており、意見や提案はその都度検討して運営に反映している。 ・家族代表より会報（おどりはちゃん）の継続発行依頼があり、要望に応え毎月発行している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のGH連絡会に参加している。区の認知症ボランティア養成講習の施設見学（体験）の受け入れをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の担当者とは、利用者の紹介などで、密に連絡を取っている。 ・区の認知症ボランティア養成研修で、2名の実習生を受け入れた。 	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを前提にしている。スタッフ会議にて禁止行為の確認をしている。ただし、利用者が不穏状態にあり危険がある場合には、一時的に玄関の施錠をすることがある。	・毎月のスタッフ会議では、具体的な事例を基に、身体拘束をしないケアについて勉強会を行なっている。 ・管理者は、職員の利用者への対応状況によってはその都度注意し、身体拘束の問題点を職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約内容等について十分に説明を行っている。また家族の要望や質問についてはきちんと対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を明確にしたり、ご意見ポストを設置しているが、大きな苦情はない。日々の口頭での意見は、速やかに解決できるよう努めている。	・家族交流会を2か月ごとに開催し、家族と職員間、家族同士の交流に役立るとともに家族の意見や要望を聴取している。 ・居室の入り口には、利用者の写真に加えて、家族の希望で名札も掲示している。	

シニアウイールおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特にそのための時間を設けてはいないが、運営と経営が分離しないよう代表者も管理者も現場に常駐し、常に意見を吸収するようにしている。	・代表者と管理者はスタッフ会議や日常業務の中で職員の意見を聴取し、サービスの向上に役立てるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金も含め、キャリアパス制度を導入する予定で、仕掛として本年より業務評価制度を導入した。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には必要に応じた研修等に参加するよう指導している。特に常勤者には優先して認知症実践者研修の受講を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高齢者グループホーム連絡会に加入し、職員交換研修を実施し職員の知識向上やネットワークづくりをしている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。また、入所間もなくは不安が大きいことから、職員とのなじみの関係が作りやすいよう特に積極的に関わるよう支援している。		

シニアウイールおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。また、家族の面会や外出・外泊には制限を設けず、家族との関係づくりを継続していただくよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。家族かには、センター方式に基づいた生活の基本情報シートを記入していただき、入居前の生活ぶりを把握して、問題解決に役立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との距離を近づけるため、利用者と個別に接する時間をたくさん設け、アットホームな関係を構築するように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月利用者の生活状況報告を送り、感想を送り返していただいている。また家族交流会を2ヵ月に1度開催し利用者と一緒に昼食を食べていただいたり、一緒に創作活動をしていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の拒否が無ければ、家族以外でも、面会はフリーである。また、可能であれば元の生活地域への外出も支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・知人が訪問してくる利用者もおおり、家族の了解を得て積極的に馴染みの人との関わりが持てるように支援している。 ・利用者の誕生日に、管理者が同行して、利用者の生家を訪問した事例もある。 	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や行動を理解し、お互いの行動が相手にマイナスの影響を及ぼさないように、席次や作業グループなど組み立てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、ターミナルや医療機関入院が多く、その後も関わるケースは少ないが、他の介護施設などに写られた場合は、家族の許可があれば面会にうかがい支援するケースもある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の生活歴や本人の意思・希望に沿ったプランを作るようにしている。意思がよく確認できなければ言葉や行動から希望を導き出すように努めている。	・職員は担当制を活かして利用者との信頼関係の構築を大切にし、日常の会話や動作で意向の把握に努めて、細やかに対処している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。家族かには、センター方式に基づいた生活の基本情報シートを記入していただき、入居前の生活ぶりを把握して、プランの作成や問題解決に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢、体調、病状、性格等により集団生活への適応が難しいケースについては、その方の生活リズムを保てるよう個別に支援している。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の資料を中心に職員それぞれが個々に利用者をアセスメントし、それぞれの視点・意見を合わせたケアプランを作っている。	・入居1か月後に、家族の協力を得、職員の観察結果も加えてアセスメントシートを作成し、ケアの課題と短期・長期目標を決めて、介護計画を作成している。 ・介護計画を利用者、・家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は独自の様式を使用し、時間を追って生活を捉えられる様に工夫したり、その方のサイクルに合わせた介護その人の思い・感情・言葉等も記録し、計画の作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常よりゆとりのある職員を配置し、その時々々の要望に対し即時実行可能なものは、都度対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や名所、公園、商店等を把握し、それぞれが興味ある事象に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に対する家族の意向は、最初の通院時に家族・スタッフが同行し、主治医に伝えている。その後もほとんどスタッフが同伴で通院し、利用者の変化を伝え、医師の指示をきちんと把握し、適切な医療を受ける支援をしている。	・利用者の希望により、従来のかかりつけ医を利用している ・協力医療機関の医師は、設備との関連で通院を希望しており、スタッフが支援している。状況により管理者が同行して、他の利用者の状況も確認している。	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の小さな変化を介護職員は見落とさず、状況を看護職員と相談しながら、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による不安が払がらないように生活状況を伝えるとともに、入院中もできるだけ病院を訪問し、治療状況や心身状況を把握し早期に退院し、戻れるようにしている。退院の際には主治医への情報提供をお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に施設の考え方を伝えている。その上で生命にかかわるような心身の変化が見られれば、主治医・本人・家族・職員で都度、意向を確認し、最適な選択ができるよう支援している。	・家族は、本人が慣れ親しんだ事業所内で最期を迎えることを希望しており、事業所では、事情が許す限り看取りを支援していく方針である。 ・今迄2名の利用者の看取りを行った。	・職員には、重度化や終末期介護の研修の折、事業所の方針を徹底し、看取りに従事する職員の不安を解消する努力が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防への通報訓練や心肺蘇生法について、訓練や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内に最低限の水と食料を確保したり、地域の防災訓練に参加はしているが、特別に具体的な協力体制はない。	・避難訓練は消防署の指導を得て、日中利用者も参加して、半年ごとに行っている。 ・訓練では、AEDの操作や消火訓練も行っている。 ・地域の防災訓練には職員が参加している。	・日中の避難訓練に加え、今後、夜間を想定した訓練の実施が望まれます。

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての利用者の個性や生活歴を理解し、その方の尊厳を保ち、プライドを傷つけないよう、スタッフがお互いに確認し合っている。	・利用者の尊厳を第一に、一人ひとりの意思をくみ取るよう声かけを行っている。 ・個人情報の記録は、事務所に保管し夜間は施錠している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択しやすいような問いかけをし、本人の意思を引き出すように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは設定しているが、あくまで本人の意思や希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の意思を優先している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力により、食事の準備や片づけをしていただいたり、火気を使用調理は一緒にしている。また、季節の和菓子作りなどは、みんなで参加して行う。	・台所にドアがなく、利用者がいつでも自由に調理に参加でき、能力と希望に応じて食前のテーブル拭きや、下膳を職員と一緒にこなしている。 ・職員と利用者が同じテーブルで一緒に食事をし、楽しい時間となるよう配慮している。	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体の栄養については、管理栄養士がメニュー管理をしている。食事や水分量は都度チェックをし、過不足の起きないように支援している。嚥下能力等に応じて、硬さや大きさなどの調節も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを促し、必要があれば、職員が支援している。希望者には訪問歯科による口腔内クリーニングも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムを掴み、失敗のないように、声かけを行い誘導している。	・排泄表により利用者のパターンを把握し、2、3時間おきに声をかけてトイレに誘導している。 ・失禁時は、さりげなくトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については、できるだけトイレで自然にできるよう心がけている。乳酸菌飲料で腸内を整えたり、医師・看護職員とも相談し、苦痛のないように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を自由に設定することはできていないが、個人の状況や希望に応じて衛生状態が保てる範囲で変更している。	・週3回、午後2時から午後4時の間を入浴時間としている。 ・入浴を好まない利用者には、何度か声をかけて入浴を勧めるが、無理な場合は翌日にしている。 ・季節ごとのしょうぶ湯、ゆず湯などで変化を持たせて、利用者に喜ばれている。	

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、昼間は活動的に過ごしていただくことを基本としている。ただし個々に応じ昼間の睡眠時間を設けることもある。冬季は湯たんぽで足部を温めで安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬局との連携を重視し、通院にも職員が同行し、利用者の状況の把握に努めている。看護師により健康チェックをしており、状況の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みや生活習慣を理解するように努め、個別に満足が得られるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、できるだけ外出を叶えている。また、季節の草花や行事があれば、積極的に外出を支援している。	・利用者の希望に応じて、近くの公園や事業所の周辺を散歩している。 ・自然との触れ合いを大切に、月に一度は、季節の桜や紫陽花・ひまわりなどの観賞に出かけている。家族からも同行の申し出があり、協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力を考慮し、家族と相談の上、買い物範囲や金額を調整し可能な範囲で利用者に委ねている。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚・友人などからの電話は、取り次ぎしている。手紙等は通常の生活と同様にプライバシー保護の元、適切に支援している。		
52	19	○居心地の良い共同空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るさを保ち誤認が無いように濃い模様や柄は避けてながら、季節を感じられるものを掲示したり飾ったりするよう心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・広いリビングは明るく、温度や湿度は適切に管理されており、テーブルやソファは、皆で集う場、小人数や独りになれる場に分けて設置している。 ・壁には、ひまわりや花火のちぎり絵の作品が飾って季節感を採り入れている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はできるだけ広く、開放的に設計されており、窓際に椅子やソファを置くなどして、個々に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者の生活レベルに合わせて、居室は本人の使い慣れた家具や装飾品を持ってきていただいている。またレイアウト等も今までの習慣やその方の生活レベルを考えて配置している。	<ul style="list-style-type: none"> ・備え付けのエアコンやクロウゼット以外、布団、タンス、ベット、写真などは、利用者の馴染みの物品を持ち込んでいる。 ・清掃は毎日職員が行っており、清潔が保たれているである。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーが基本で、かつ見守りしやすくしてあり、できるだけ自立した生活が継続できるようにしている。		

事業所名	シニアウイルおどりば戸塚
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は尊厳・なじみの関係・地域参加・医療との連携を掲げており、日常の介護において無理なく実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、運営推進会議には町内会長や民生委員も出席いただき意見交換をしている。また、地域の祭りや運動会などにはできるだけ参加するように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の人に認知症のセミナーなどを開催したことはない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実績についての報告や取組みについて意見交換を行っている。得られた意見については、事業所で検討し可能な意見については積極的に取り入れ実践に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区のGH連絡会に参加している。区の認知症ボランティア養成講習の施設見学（体験）の受け入れをしている。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを前提にしている。スタッフ会議にて禁止行為の確認をしている。ただし、利用者が不穏状態にあり危険がある場合には、一時的に玄関の施錠をすることがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約内容等について十分に説明を行っている。また家族の要望や質問についてはきちんと対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を明確にしたり、ご意見ポストを設置しているが、大きな苦情はない。日々の口頭での意見は、速やかに解決できるよう努めている。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特にそのための時間を設けてはいないが、運営と経営が分離しないよう代表者も管理者も現場に常駐し、常に意見を吸収するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金も含め、キャリアパス制度を導入する予定で、仕掛として本年より業務評価制度を導入した。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には必要に応じた研修等に参加するよう指導している。特に常勤者には優先して認知症実践者研修の受講を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高齢者グループホーム連絡会に加入し、職員交換研修を実施し職員の知識向上やネットワークづくりをしている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。また、入所間もなくは不安が大きいことから、職員とのなじみの関係が作りやすいよう特に積極的に関わるよう支援している。		

シニアウイールおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。また、家族の面会や外出・外泊には制限を設けず、家族との関係づくりを継続していただくよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。家族かには、センター方式に基づいた生活の基本情報シートを記入していただき、入居前の生活ぶりを把握して、問題解決に役立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との距離を近づけるため、利用者とは個別に接する時間をたくさん設け、アットホームな関係を構築するように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月利用者の生活状況報告を送り、感想を送り返していただいている。また家族交流会を2ヵ月に1度開催し利用者と一緒に昼食を食べていただいたり、一緒に創作活動をしていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の拒否が無ければ、家族以外にも、面会はフリーである。また、可能であれば元の生活地域への外出も支援する。		

シニアウイールおどりば戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や行動を理解し、お互いの行動が相手にマイナスの影響を及ぼさないように、席次や作業グループなど組み立てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、ターミナルや医療機関入院が多く、その後も関わるケースは少ないが、他の介護施設などに写られた場合は、家族の許可があれば面会にうかがい支援するケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の生活歴や本人の意思・希望に沿ったプランを作るようにしている。意思がよく確認できなければ言葉や行動から希望を導き出すように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には家族や本人からの要望をきちんと把握している。家族かには、センター方式に基づいた生活の基本情報シートを記入していただき、入居前の生活ぶりを把握して、プランの作成や問題解決に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢、体調、病状、性格等により集団生活への適応が難しいケースについては、その方の生活リズムを保てるよう個別に支援している。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の資料を中心に職員それぞれが個々に利用者をアセスメントし、それぞれの視点・意見を合わせたケアプランを作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は独自の様式を使用し、時間を追って生活を捉えられる様に工夫したり、その方のサイクルに合わせた介護その人の思い・感情・言葉等も記録し、計画の作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常よりゆとりのある職員を配置し、その時々々の要望に対し即時実行可能なものは、都度対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や名所、公園、商店等を把握し、それぞれが興味ある事象に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に対する家族の意向は、最初の通院時に家族・スタッフが同行し、主治医に伝えている。その後もほとんどスタッフが同伴で通院し、利用者の変化を伝え、医師の指示をきちんと把握し、適切な医療を受ける支援をしている。		

シニアウイールおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の小さな変化を介護職員は見落とさず、状況を看護職員と相談しながら、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院により、精神的な不安が払がらないように生活状況を伝えるとともに、入院中もできるだけ病院を訪問し、治療状況や心身状況を把握し、できるだけ早期に退院し、戻れるようにしている。また退院の際には主治医への情報提供をお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に施設の考え方を伝えている。その上で生命にかかわるような心身の変化が見られれば、主治医・本人・家族・職員で都度、意向を確認し、最適な選択ができるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防への通報訓練や心肺蘇生法について、訓練や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内に最低限の水と食料を確保したり、地域の防災訓練に参加はしているが、特別に具体的な協力体制はない。		

シニアウイールおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての利用者の個性や生活歴を理解し、その方の尊厳を保ち、プライドを傷つけないよう、スタッフがお互いに確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択しやすいような問いかけをし、本人の意思を引き出すように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは設定しているが、あくまで本人の意思や希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の意思を優先している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力により、食事の準備や片づけをしていただいたり、火気を使用調理は一緒にしている。また、季節の和菓子作りなどは、みんなで参加して行く。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体の栄養については、管理栄養士がメニュー管理をしている。食事や水分量は都度チェックをし、過不足の起きないように支援している。嚥下能力等に応じて、硬さや大きさなどの調節も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを促し、必要があれば、職員が支援している。希望者には訪問歯科による口腔内クリーニングも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムを掴み、失敗のないように、声かけを行い誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については、できるだけトイレで自然にできるよう心がけている。乳酸菌飲料で腸内を整えたり、医師・看護職員とも相談し、苦痛のないように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を自由に設定することはできていないが、個人の状況や希望に応じて衛生状態が保てる範囲で変更している。		

シニアウイロおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、昼間は活動的に過ごしていただくことを基本としている。ただし個々に応じ昼間の睡眠時間を設けることもある。冬季は湯たんぽで足部を温めで安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬局との連携を重視し、通院にも職員が同行し、利用者の状況の把握に努めている。看護師により健康チェックをしており、状況の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みや生活習慣を理解するように努め、個別に満足が得られるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、できるだけ外出を叶えている。また、季節の草花や行事があれば、積極的に外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力を考慮し、家族と相談の上、買い物の範囲や金額を調整し可能な範囲で利用者に委ねている。		

シニアウイルおどりは戸塚

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚・友人などからの電話は、取り次ぎしている。手紙等は通常の生活と同様にプライバシー保護の元、適切に支援している。		
52	19	の 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るさを保ち誤認が無いように濃い模様や柄は避けてながら、季節を感じられるものを掲示したり飾ったりするよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はできるだけ広く、開放的に設計されており、窓際に椅子やソファを置くなどして、個々に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の認知症の生活レベルに合わせて、居室は本人の使い慣れた家具や装飾品を持ってきていただいている。またレイアウト等も今までの習慣やその方の生活レベルを考えて配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が継続できるようにしている	建物はバリアフリーが基本で、かつ見守りしやすくしてあり、できるだけ自立した生活が継続できるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

シニアウイルおどりは戸塚

作成日

平成22年9月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	看取り介護を掲げているが、現場では看取りに関する不安が大きい	看取り介護を行うに当たり、現場の職員が不安なく介護業務に携われるようになる	看取り介護の心得や考え方の社外の研修に順次参加するとともに、社内でも研修を開き施設の考え方や医療・主治医との連携体制などの考え方を統一し浸透させていく	1年
2	13	避難訓練は行っているが、夜間を想定したものはない	スタッフが少ない夜間での災害についての知識を職員全員が習得する	防災の研修会に参加しイメージを掴み、社内で共有する。避難訓練の際に消防の方から指導を受ける	1年
3					
4					
5					